

恒久的に安全性や耐久性確保



ハイチの首都ポルトープランスと同国北部・中部地域の主要都市を結ぶ国道1号線とそのバイパス(BP)が発注し、設計をセントラルコンサルタンツ、施工を安藤ハザマが担当した。国際協力機構(JICA)の無償資金協力を受け、2017年9月から22年3月にかけて事業を実施した。

ポルトープランス郊外の北東にあるダバレ地区で架け替えられたのは国道1号に架かる「クロワ・デ・ミッション橋梁」。架け替え前の橋は経年劣化が進み、10年1月12日に発生したエレクションガーターによる桁の送り出し

クロワ・デ・ミッション橋梁および新幹線橋梁架け替え計画

(ハイチ)

マグニチュード(M)7の地震や度重なるハリケーンの影響で損傷も激しく、現地では落橋のリスクが懸念されていた。

同橋梁の架け替え工事では、打設したコンクリートが硬化した後にプレストレストコンクリート(PC)鋼材を緊張する3径間のポストテンション方式のT桁橋を採用した。PC橋の施工で最も一般的な工法とされる。橋長は78・7㍎。現場近くの製作ヤードでPCセグメント桁をポストテンションT桁が運搬できる大きさに分割してから製作し現場へ運搬。現場隣にエレクションガーターを設けてからPC桁を順次送り出し架設していった。

PCセグメント桁の運搬は大型トレーラーに特殊固



PCセグメント桁の緊張作業。コンクリートに過大な引張力が生じないように工夫した(いずれもクロワ・デ・ミッション橋梁)

ハイチのインフラ整備は1990年代後半から2005年ごろまで続いた政治的混乱の影響で停滞。10年の地震ではポルトープランス周辺一帯で主要幹線道路を含むインフラが壊滅的な被害を受けた経緯がある。同国政府は行政機能や経済の首都圏一極集中が被害を拡大させたと分析し、地方への機能分散を進めている。

首都圏にあるシテソレイユ地区では、国道1号のB新線道路に架かる仮設橋の架け替えも実施した。橋梁形式はクロワ・デ・ミッション橋梁と同じPC3径間ポストテンションT桁橋。橋長は93・4㍎になる。国道1号とそのBP新線道路に架かる橋梁2橋の架け替えにより、恒久的に安全性や耐久性などに優れた幹線道路のアクセス機能を確保。北部・中部地域の開発など震災後の発展に貢献するプロジェクトとして位置付けられている。

